

## 【学会報告】

### 微笑みの国の老年学

丸山 直記

東京都健康長寿医療センター研究所

タイ老年学会の招きでバンコクを訪れました。タイ老年学会が主催する「Improving Geriatric and Gerontology through Cultural Diversity」と題するセミナーでした。講演を行ったのは私とソウル国立大学のSung Jae Choi先生でした。どうして2人が講演をする事になったのか行く前はわからなかったのですが、現地で気がつきました。タイ老年学会は2015年のアジア・オセアニア老年学会議に立候補しており、その招致活動の一環ではないかと思われれます。Choi先生も私もアジア地域のcouncil memberなのです。セミナーではChoi先生は韓国の高齢化社会の問題とそれに関する政策決定について講演しました。Choi先生はその中で韓国に於ける多くの課題について、日本がモデルであったということは何度も話されました。それを聴くたびに我々、日本の老年学の課題はアジアの課題でもあり、日本が果たす役割の重要性を認識しました。私は一般的な老化の生物学的な事柄について私の考え方を簡単に紹介し、我々の組織における自然科学、社会科学、そして病院との連携について紹介し、研究領域を超えた研究活動を力説しましたが、意図するところは伝わったと思われれます。ただ基礎的な研究についてはまだ体制が整っていないとの事でした。現在のタイ老年学会の会長はPranom Othaganont先生というチュラロンコン(Chulalongkorn)大学の看護学の教授ですが、王家とのつながりのある方で、皇太后が看護師であったことから、王家からは様々なサポートがあるとのことでした。タイでは老年看護学は勢いがよいとのことでした。次回のアジア・オセアニアの大会長となるのは現副会長のSutthichai Jitapunkul先生で、チュラロンコン(Chulalongkorn)大学の老年医学の教授です。彼はGGIにはよく投稿しているそうです。講演会の後の夕食会は学会会場に予定されている国際会議場と隣接するホテルCentara Grandで行われましたが、国際会議場は極めて立派でした。会場の周辺は極めて近代的なオフィス・ショッピング街で、また治安も良いとのことでした。またこの地域は多くの観光寺院や王宮が近い事もあり、実際に夜の10時頃でも多くの市民が歩いていました。日本からは約2000人程の参加者を期待しているとのことですが、韓国のChoi先生と私は多くの参加者を期待するには「安全性、治安の良さ」と

「現代的な施設と伝統の共存」がアピールポイントであることを強調しました。その観点では現在、立候補するとされている他の国よりも極めて良い条件であることは間違いないと思います。招待されたのが理由ではありませんが、必ず参加しようと思いました。タイは極めて親日的であることを実感しました。バンコク市内を走る自動車の95%以上が日本車であり、それも左側を走っています。夕食の際にお酒の話が出た時にJitapunkul先生はタイに焼酎の製法を伝えたのは日本人ですと言われました。それは誰ですかと尋ねると「ヤマダ!」と答えました。そう私たちが子供の頃に知っていた山田長政でした。実際に彼が伝えたのかは知りませんが、タイが日本に期待している事を私たちは忘れてはいけません。この国が「微笑みの国」と呼ばれていることはご承知でしょうが、どこでも穏やかな微笑みを見る事ができ極めて楽しい滞在となりました。タイ老年学会が私を招聘した目的は十分に達成されたのかもかもしれません。

